

## 10 通園療育における短期間療育の取り組みについて

秩父学園 地域支援課 地域療育支援室 大門亜希子 村上功二 星美弥子

### 【はじめに】

秩父学園では、平成 24～27 年度まで「発達障害児及び家族包括支援事業」の取り組みを行った。自閉スペクトラム症等の発達障害のあるお子さんの育ちと家族による子育てを応援し、家族が適切な子育てをするためのきっかけや支援が進んでいない地域に対してサービスを提供することを目的とした。短期間の療育でアセスメントに基づいた本人への支援、家族に対する相談・勉強会等のプログラムを実施し、効果がみられたので報告する。

### 【方法】

対象児：年齢は 3 歳から就学前の児童。自閉スペクトラム症等の発達が気になる児童。対象地域：関東地域。実施期間：平成 24～25 年度は 3 日間、平成 26～27 年度は前期 3 日間、後期 2 日間の 2 回に分けて実施。内容：本人のアセスメントを中心とした療育、ご家族に対する療育相談・勉強会を行い、今後の子育ての方向性を提案した。また、対象児が在籍する関係機関に引き継ぎを行った。実施後は、評価のため保護者にアンケートを実施した。

### 【結果】

利用者数は、平成 24～27 年度まで合計 67 名であり、年齢は年少 24 名、年中 22 名、年長 21 名であった。主な診断名は自閉スペクトラム症であり、11 名が未診断であった。アセスメントは、PEP-3、WISC-IV等の発達検査や、国リハ式<S-S 法>言語発達遅滞検査、JSI-R、J-MAP 等の検査を心理士・言語聴覚士・作業療法士が必要に応じて実施した。療育の内容は、机上学習、集団活動（音楽・リトミック等）、社会資源の利用やそれに伴う公共交通機関の利用、設定あそびやクッキング等の余暇活動を個々の発達段階に合わせて実施した。ご家族の勉強会は、子どもに適した接し方を中心に子育てのヒントについて学習した。関係機関の引き継ぎは、保育所や幼稚園等を訪問した。実施後のアンケートでは、「様々な検査を受け、子どもの得意・不得意を知ることができた」「外出で視覚支援があると、見通しを持ち落ちついて行動できることがわかった」「子どもの良い所を見つけて褒めてあげることが、今後増やしていきたい」「家庭での具体的な対応方法を知ることができ、子育てに前向きになった」等のプログラム内容に満足している感想が大多数となった。

### 【考察】

アンケート結果からは、本人のアセスメントを中心とした療育、家族に対する療育相談・勉強会等を全て短期間に集中して実施するなど、本事業独自の取り組みが評価されたものであると考えられる。短期間の療育で保護者の満足度や療育の効果を得るためには、①アセスメントに基づいた支援の必要性②保護者が子どもへの理解を深め、適切な子育てのヒントを学ぶ機会の必要性③家庭で般化できる具体的な支援を提供することの重要性が求められていることがわかった。

障害者福祉計画の基本指針で、障害児入所施設のあり方として短期入所や親子入所等の実施体制の整備が望ましいとされていることから、今後本事業の取り組みを参考モデルとして情報発信していきたいと考えている。